

意識調査にもとづく一般市民による AED の積極的な活用を阻害する因子の調査に関する研究

研究分担者	西山 知佳	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻臨床看護学分野 クリティカル看護学分野 准教授
研究協力者	石見 拓	京都大学環境安全保健機構健康科学センター 教授
	川村 孝	京都大学環境安全保健機構健康科学センター 教授
	岡村 里枝	京都大学環境安全保健機構健康科学センター 助教
	島本 大也	京都大学環境安全保健機構健康科学センター 特定助教
	志田 瑤	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 専門職学位課程修了生

研究要旨

【背景】救命率向上のためには、その場に居合わせた人（bystander）による心肺蘇生（Cardiopulmonary resuscitation: bystander CPR）および、自動体外式除細動器（Automated external defibrillator: AED）による除細動の実施が不可欠である。市民が CPR 実施や AED 使用に踏み切ることができない要因として、AED 設置場所がわからないこと、AED 使用に対する自信のなさ、AED の認知不足などが指摘されている。

【目的】本研究では、救急現場に居合わせた市民を対象に、人が倒れた現場に遭遇した際、AED を含めた救命行動の実態および、AED が使用できなかった理由を明らかにする。

【方法】消防機関や日本赤十字社等の心肺蘇生講習会の参加者、並びに企業従業員のうち、18 歳以上の市民に対して無記名自記式質問紙を用いた横断研究を行った。5 年以内に救急現場に居合わせた経験のあるものを解析対象とした。救急現場に遭遇した場所のみならず、救急現場の状況により、AED を含めた救命行動に違いがある可能性を考え、救急現場の場所に加え、心停止、心停止以外、（原因が）わからなかったの 3 つ状況に分けて、何らかの救命行動の実施の有無、AED の運搬の有無、AED の使用の有無、AED が使用できなかった場合その理由を記述した。

【結果】8,430 人に質問紙を配布、7,827 人（92.8%）から回収し、5 年以内に救急現場に居合わせた 1,994 人を解析対象とした。心停止状況下において、AED を探しに行ったり、運搬した割合は、自宅 12.5%、職場 85.1%、公共施設 84.6%、学校、スポーツ施設ではいずれも 100%、その他 76.4%であった。AED の使用（AED パッドを貼り付けた、もしくは電気ショックボタンを押した）は、自宅 6.3%、職場 72.4%、公共施設 76.9%、学校、スポーツ施設ではいずれも 100%、その他 67.7%であった。胸骨圧迫の実施割合は、自宅 87.5%、職場 78.8%、公共施設、学校、スポーツ施設ではいずれも 100%、その他 85.3%であった。心停止状況下において AED が使用できなかった理由は、自宅では「AED を調達できる状況ではなかった（自分以外に人がいなかったなど）」（46.2%）、職場では、「AED を調達できる状況ではなか

った（自分以外に人がいなかったなど）」「倒れている人が、会話ができるなど明らかに AED が不要な状態であった」（いずれも 23.1%）、その他では「AED が到着する前または、使用する前に救急隊が到着した」（36.4%）であった。

【結語】AED の使用状況や理由は場所により違いがあり、救急現場の環境が原因になっていた。設置されている AED を有効に活用するために、講習会内容の見直しや AED を心停止現場に届けるスマートフォンなどのシステムの活用が有用かもしれない。

A. 研究目的

救急現場に居合わせた市民を対象に、人が倒れた現場に遭遇した際、AED を含めた救命行動の実態および、AED が使用できなかった理由を明らかにする。

B. 研究方法

1. 研究デザイン

横断的研究

2. セッティング

大阪市消防局、高崎市等広域消防局、堺市消防局、岸和田市消防本部、大阪ライフサポート協会、茨城 PUSH、愛知 PUSH、日本赤十字社（本部・47 支部）が実施している心肺蘇生講習会（参加者）、ならびに京都大学、第一生命保険株式会社の 2 事業所（従業員）とした。

3. 研究対象者の適格基準

18 歳以上の市民とし、医師、看護師、救急救命士の医療系国家資格を有するものを除外した。

4. 質問紙作成方法

1) 救命行動の実施に関する項目

- ①倒れている人に声をかけた（意識の確認をした）
- ②人を集めた、もしくは AED を要請するなど周りの人に指示をした
- ③119 番通報を行った
- ④AED を探しにいった、もしくは AED を運搬した
- ⑤胸骨圧迫（心臓マッサージ）を 1 回でも行った

⑥人工呼吸を 1 回でも行った

⑦AED パッドを貼り付けた、もしくは電気ショックボタンを押した（AED の運搬は含まない）

⑧上記以外に何らかの救命行動を行った

なお、人が倒れた現場とは、倒れた原因は問わずに自分の目の前で人が倒れた、もしくは倒れていた場面とし、酔っ払いなど明らかに救命処置（119 番通報など）が必要でない場合は除くと定義した。

2) AED 使用への障壁に関する項目

先行文献を参考に研究者内で議論し、AED 使用への障壁となりうる以下 10 項目の評価項目の作成を行った。

なおこの評価項目は、(ア) の救命行動の実施に関する項目のうち、⑦AED パッドを貼り付けた、もしくは電気ショックボタンを押した（AED の運搬は含まない）を「実施しなかった」と回答したものに対して行い、当てはまる理由を複数選択形式で回答を求めた。

①倒れていた人が、会話ができるなど明らかに AED が不要な状態であった

②AED が到着する前または、使用する前に救急隊が到着した

③AED を調達できる状況ではなかった（自分以外に人がいなかったなど）

④自分自身が AED を使用してもよいかわからなかった

⑤倒れている人に対して AED を使用してよい状況かどうかわからなかった

⑥AED は到着したが、使用方法がわからなかった

⑦AED は到着したが、正しく利用できるか自信がなかった

⑧AED がどこにあるかわからなかった

⑨AED を使用するということが思いつかなかった

⑩AED をそもそも知らなかった

3) その他の項目

先行研究をもとに、救命行動と関連のある項目として対象者の属性 2 問（性別、年齢）、自身および救急現場の特徴 7 問（救急現場に遭遇する前の心肺蘇生講習会の受講の有無、救急現場に遭遇する前の傷病者への対応の有無、遭遇場所、傷病者との関係、傷病者の倒れた状況、傷病者の性別、傷病者の年齢区分）を含めた。

5. 質問紙の配布方法

心肺蘇生講習会を行っている機関では、講習会開始前に講習会に参加した市民に対して、無記名自記式質問紙を配布し、その場で回収を行った。それ以外の機関は、研究対象の適格基準に当てはまる市民に対して質問紙を配布し回収した。京都大学以外の機関では、質問紙配布と回収は機関の担当者へ依頼し、回収された質問紙は配布機関より京都大学へ郵送された。

6. 質問紙調査実施期間

2018 年 8 月 1 日～2018 年 11 月 20 日

7. 解析方法

救急現場に遭遇した経験があると回答したものを対象とした。解析対象集団は、適格基準を満たした中で、5 年以内に救急現場に居合わせた経験のあるものとし、病院や老人ホームでの遭遇は除外した。さらに自宅への AED 設置は限られていることを考え AED の使用状況は、救急現場が発生した場所に大きく依存すると考えた。そのため、救急現場の場所の情報がないものも解析対象から外した。

救急現場に遭遇した場所に加え、救急現場の状況により、AED を含めた救命行動に違いがある

可能性を考えた。そこで発生場所に加え、心停止遭遇場面（以下、心停止）、心停止以外の人が倒れた（倒れていた）場面への遭遇（以下、心停止以外）、人が倒れていた状況（原因）がわからなかった（以下、わからない）の 3 つ状況に分けて、AED 使用を含めた救命行動、AED 使用に関する障壁について記述した。

SPSSVers.24J (IBM Crop. Armonk, NY)を使用した。

（倫理面への配慮）

事前に説明文書において調査内容や所要時間などを説明し、自由意思による参加並びに、回答を拒否することは可能であることを周知した。心理的な支援や精神科治療を必要とする対象者には相談・医療機関に受診できるよう説明文書に研究者の連絡先を記載した。

本研究は京都大学医の倫理委員会による承認（R1393）を得て実施した。

C. 研究結果

1. 質問紙集計

8,430 人に質問紙を配布し、7,827 人（92.8%）から回収し、適格基準に該当した者は 7,008 人（83.1%）であった。そのうち 5 年以内に救急現場に居合わせた経験のあるものは 1,361 人（16.1%）であり、無効回答者、救急現場の場所のデータがないものを除いた 1,194 人を解析対象とした（図 1）。

2. 対象者（救助者）と救急現場の全体背景

男性 636 人（53.3%）、救助者の年齢の中央値 39 歳（四分位：27.0 歳—49.0 歳）、救急現場に居合わせる前の心肺蘇生講習会の受講経験あり 729 人（61.1%）であった。

遭遇した救急現場の状況は、心停止現場が 122 人（10.2%）、心停止以外の現場 849 人（71.1%）、わからないが 223 人（18.7%）であった。

遭遇した救急現場の場所は、自宅が 101 人

(8.5%)、職場 292 人 (24.5%)、公共施設 177 人 (14.8%)、学校 79 人 (6.6%)、スポーツ施設 56 人 (4.7%)、その他 (道路上等) 489 人 (41.0%) であった。

傷病者との関係性は、家族が 102 人 (8.5%)、友人 55 人 (4.6%)、知人 53 人 (4.4%)、同僚 99 人 (8.3%)、その他 881 人 (73.8%) であった。

3. 傷病者が倒れた場所別および状況別、対象者（救助者）背景

表 1 に傷病者が倒れた場所別および状況別、対象者（救助者）背景を示す。場所および状況ごとに救助者の背景が異なっていた。年齢は中央値で 26 歳（学校・心停止以外）から 50 歳（スポーツ施設・心停止）、救急現場に居合わせる前の心肺蘇生講習会の受講経験があった割合は、20.0%（スポーツ施設・わからない）から 83.3%（学校・心停止およびスポーツ施設・心停止）であった。

4. 傷病者が倒れた場所別および状況別、現場の状況

表 2 に傷病者が倒れた場所別および状況別、現場の状況を示す。

対象者（救助者）以外の他の人がいた割合は、自宅において 62.5%（心停止）、75.3%（心停止以外）、100%（わからない）、公共施設、学校、スポーツ施設においてはいずれの状況下でも 100%であった。倒れた人との関係性をみてみると、自宅では家族の割合が、93.8%（心停止）、89.0%（心停止以外）、83.3%（わからない）であった。

5. 傷病者が倒れた場所別および状況別、対象者（救助者）が行った救助行動

表 3 に傷病者が倒れた場所別および状況別、AED の使用を含め対象者（救助者）が行った救助行動を示す。

最も AED を使用して欲しいと考える心停止状況下において、対象者自身が行った場合と他の救助者が行った場合を合わせて AED を探しに行っ

たり、運搬した割合をみてみると、自宅では 12.5%、職場 85.1%、公共施設 84.6%、学校、スポーツ施設ではいずれも 100%、その他 76.4%であった。AED の使用（AED パッドを貼り付けた、もしくは電気ショックボタンを押した）に関しては、自宅では 6.3%、職場 72.4%、公共施設 76.9%、学校、スポーツ施設ではいずれも 100%、その他 67.7%であった。

胸骨圧迫の実施割合も AED 同様に対象者自身が行った場合と他の救助者が行った場合を合わせてみてみると、自宅では 87.5%、職場 78.8%、公共施設、学校、スポーツ施設ではいずれも 100%、その他 85.3%であった。人工呼吸については、自宅では 37.5%、職場 44.7%、公共施設 61.5%、学校、スポーツ施設ではいずれも 66.7%、その他 61.8%であった。

6. 傷病者が倒れた場所別および状況別、対象者（救助者）が AED を使えなかった理由

表 4 では、AED の使用（AED パッドを貼り付けた、もしくは電気ショックボタンを押した）ものに対してその理由を聞いた結果を示す。

AED を最も使用して欲しい心停止状況下において使用できなかった理由を場所ごとでみると、自宅では「AED を調達できる状況ではなかった（自分以外に人がいなかったなど）」（46.2%）が最も多く、ついで「AED がどこにあるかわからなかった」（15.4%）であった。職場では、「AED を調達できる状況ではなかった（自分以外に人がいなかったなど）」「倒れている人が、会話ができるなど明らかに AED が不要な状態であった」（いずれも 23.1%）、ついで「倒れている人に対して AED を使用してよい状況かどうかわからなかった」「AED が到着する前または、使用する前に救急隊が到着した」（15.4%）、その他では「AED が到着する前または、使用する前に救急隊が到着した」（36.4%）ついで、「AED を調達できる状況ではなかった（自分以外に人がいなかったなど）」「AED がどこにあるかわからなかった」

(27.3%)であった。

D. 考察

本研究は、救急現場に居合わせた市民を対象に、人が倒れた現場に遭遇した際、AEDを含めた救命行動の実態および、AEDが使用できなかった理由を、救急現場の発生場所およびその状況（心停止、心停止以外、わからない）に分けて検討を行った。これまでの研究では、心停止現場に限定しAEDの使用状況を検討されているものはあったが、今回は状況を限定せず心停止現場以外でもAEDが使用されているか実態を調べた。

最もAEDの使用が望まれる心停止状況下において、一般市民がAEDを探しに行ったり運搬している割合は、自宅では12.5%、職場85.1%、公共施設84.6%、学校、スポーツ施設ではいずれも100%、その他76.4%であった。自宅とそれ以外の場所では、AEDを探しに行ったり運搬している割合の違いが著明であった。これは、救急現場が発生した場所にAEDが設置されている（その可能性がある）場所かどうかおよび、救急現場に複数人の人がいて救助行動を協力して行える環境であるか否かが影響している。本研究では、自宅では62%しか周りに人がいる環境でなかったことに比べ、それ以外の場所では90-100%周りに人がいる環境であった。AEDの適正配置に関するガイドラインでは、集合自宅についてはAEDの設置を考慮してもいい場所として例示され、周囲で救助を行うものがあることが期待される状況下であれば、自宅にAEDの設置を考慮してもよいと言われている。今回、集合住宅であったか否かは不明であるが、自宅への設置は限られていることが考えられるため、自宅で救急現場に居合わせた際には、AEDを探したり運搬することは難しい状況であると言える。その結果、AEDの使用割合の低さにもつながることが考えられる。周囲で救助を行うものがあることが期待できる場所へAEDを設置することは、AEDを

一般市民に利活用してもらうための第一歩になる。

AEDの使用についても、自宅では6.3%、職場72.4%、公共施設76.9%、学校、スポーツ施設ではいずれも100%、その他67.7%と先行研究同様に場所によって相違がみられた。AEDの適正配置に関するガイドラインにおいて、AEDの設置を推奨されている施設である学校やスポーツ施設ではAEDが100%使用されていた。AEDは設置するだけでなく、それを使える人が周りにいることが救命には不可欠である。また、救命率を高めるためにはAEDの使用のみならず、同時に胸骨圧迫が実施されることが重要である。これらの場所における胸骨圧迫実施割合はいずれも100%であり、一般市民により理想的な救命行動が実施されていることが示唆されている。今回は救命率に関するデータがないため、これらがどの程度の効果を得られているかまでは評価することができていない。今後、場所の詳細な情報とAED使用および、救命率の検討も実施する必要がある。

AEDの使用割合は、全国ウツタインデータに基づいた報告(4.9%)よりも高い傾向であった。全国ウツタインデータでは、一般市民により通電が成功したものをAED使用と定義しているが、本研究では、通電のみならずAEDパッド貼付も合わせてAED使用として定義した。そのため、全国ウツタインデータのAEDの使用割合と大きな違いが見られている。一般市民によってAEDのパッドが貼付された割合を評価した先行研究では(2011年～2012年のデータ)、AEDパッド貼付割合は自宅でも最も低く(1.3%)、スポーツ施設(69.4%)、学校(50.0%)と、本研究のAED使用割合の方がいずれの場所でも高い傾向であった。本研究は、2013年～2018年の間に救急現場に遭遇した人を対象に行っている。先行研究の対象期間である2011年には国内AED累計販売台数は310,075台、2016年は688,329台(本研究期間中の利用できる最新データ)と約2倍日本

国内に AED が普及している。この設置台数の違いが、結果に影響しているのかもしれない。

一方で、倒れた状況が心停止かどうかかわらなかつた状況においても、職場では 30.6%、公共施設 57.2%、学校 50.0%、スポーツ施設 80.0%、その他 45.3%、AED を使用していた。AED には電気ショックが必要な状況か否かを判断する機能がついており、わからない場合は使用するという講習会での指導が影響している可能性が考えられる。これらの状況下で AED が使用されなかつた理由をみると、「倒れている人に対して AED を使用してよい状況かどうかわからなかつた」「AED を使用するということが思いつかなかつた」と回答しているものが多かつた。AED がさらに利用されるためには、人が倒れた現場に遭遇した際、まず心停止ではないかと疑うことが重要である。AED 自身が電気ショックの適応の有無を判断するため、必要でない傷病者に対して利用しても害はないこと、また、誰でも使用してよいことを今以上に伝え、傷病者の意識があり、AED が不要であることが明らかに判断できる場合を除いては、AED を使用することが当たり前になるように指導を強化することが必要と考えられる。

心停止現場において AED を使用できなかつた理由を場所別にみると、他の人の存在、AED が到着するまでに要する時間といった、救急現場の環境が原因になっていた。現場に自分自身しかなかつた場合や、自らが他の救命行動をしていた場合は、AED の使用が困難であつたことが推測できる。救命行動にはいくつかのプロセスがあり、一人ですべてを担うことは難しい。救急現場で他の人が既に何らかの救命行動を行つていたとしても、人手が必要な可能性があるため、そのような現場に遭遇した際には声を掛けるように講習会で指導することは有効かもしれない。救助者にとってなじみのある場所で、人が倒れた現場に遭遇した際には AED がどこにあるか見当がつくが、いつ・どこでそのような場面に遭遇するか

はわからない。昨今、心停止が発生した際近くの人にそのことを知らせ、応援を呼んだり、AED を心停止現場へ届けるスマートフォンなどのシステムの有効性が証明されてきている。このようなシステムが普及することで、AED の設置場所がわからないため AED が使用できない、AED 到着よりも先に救急隊が到着したため AED が使用できなかつたということは解消されるかもしれない。

胸骨圧迫の実施割合は、救助者が行つた場合と他の人が行つた場合を合わせて、自宅では 87.5%、職場 78.8%、公共施設、学校、スポーツ施設ではいずれも 100%、その他 85.3%であり、全国ウツタインデータの 58.1%よりもいずれも高い割合であつた。救命講習会を受けに来ている人の中には、救急現場に遭遇した際に、他の人が何らかの救命行動を行つている姿を見て何もその時にできなかつたことを悔やみ心肺蘇生講習会を受講している人が含まれているかもしれない。一方、他の人の行動を見て自分自身が行動を起こせなかつたことを悔やんでいない人は、講習会に参加することは少ないかもしれない。このような、対象者の偏りが胸骨圧迫の実施割合の高さに表れているかもしれない。

本研究にはいくつかの限界がある。第一に、質問紙調査を行つた対象の年齢の中央値は 39 歳であり、多くが日中に働きに出ている世代であつたと考えられる。そのため本結果の一般化可能性には限界がある。第二に、質問紙配布場所の多くが心肺蘇生講習会であつたため、心肺蘇生や AED に関心が高いものが多く含まれている可能性があり結果に影響していることは否めない。第三に、対象者による自記式回答のため、回答情報の正確性およびその客観性に欠ける点は否めない。最後に、救命行動は社会的に望まれる行動であるため、回答に社会的望ましきバイアスが含まれている可能性がある。

E. 結論

心停止現場において、一般市民が AED を探しに行ったり運搬している割合は、自宅 12.5%、職場 85.1%、公共施設 84.6%、学校、スポーツ施設ではいずれも 100%、その他 76.4%、AED の使用については、自宅 6.3%、職場 72.4%、公共施設 76.9%、学校、スポーツ施設ではいずれも 100%、その他 67.7%であり、場所により違いがみられた。AED を使用できなかった理由も場所に依存しており、他の人の存在、AED が到着するまでに要する時間といった、救急現場の環境が原因になっていた。設置されている AED を有効に活用するために、講習会内容の見直しや AED を心停止現場に届けるスマートフォンなどのシステムの活用が有用かもしれない。

F. 研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

- 1) 西山 知佳, 志田 瑤, 岡林 里枝, 川村 孝, 石見 拓, 坂本 哲也. 傷病者の状況別にみた市民の AED 使用と使用をためらった理由. 第 32 回心臓性急死研究会、東京、2019 年 12 月.

文 献

- 1) 総務省消防庁：令和元年版 救急救助の現況 https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/items/kkkg_r01_01_kyukyuu.pdf (2020 年 5 月 10 日アクセス)
- 2) 日本救急医療財団：AED の適正配置に関するガイドライン. <https://www.mhlw.go.jp/content/10802000/000510061.pdf> (2020 年 5 月 10 日アクセス)
- 3) Kiyohara K, Kitamura T, Sakai T, et al. Public-access AED pad application and

outcomes for out-of-hospital cardiac arrests in Osaka, Japan. *Resuscitation*.2016;104:70-75.

- 4) Kitamura T, et al. Nationwide public-access defibrillation in Japan. *N Engl J Med*. 2010;362:994-1004.
- 5) Okubo M, Kiyohara K, Iwami T et al. Nationwide and regional trends in survival from out-of-hospital cardiac arrest in Japan: A 10-year cohort study from 2005 to 2014. *Resuscitation*. 2017;115:120-128.
- 6) 田邊晴山, 横田裕行：AED の販売台数と設置台数の調査に関する研究。平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金研究報告書「心臓突然死の生命予後・機能予後を改善させるための一般市民による AED の有効活用に関する研究」(研究代表者：坂本哲也)
- 7) 日本蘇生協議会監：JRC 蘇生ガイドライン 2015. 医学書院，東京，2016.
- 8) Riegel B, Mosesso VN, Birnbaum A, et al. Stress reactions and perceived difficulties of lay responders to a medical emergency. *Resuscitation*. 2006;70:98-106.
- 9) Edwards AL. The social desirability variable in personality assessment and research. New York: Dryden Press; 1957.
- 10) Murakami Y, Iwami T, Kitamura T et al. Outcomes of out-of-hospital cardiac arrest by public location in the public-access defibrillation era. *J Am Heart Assoc*. 2014; 3(2):e000533.
- 11) Nishiyama C, Kiyohara K, Matsuyama T, et al. Characteristics and Outcomes of Out-of-Hospital Cardiac Arrest in Educational Institutions in Japan: All-Japan Utstein Registry. *Circ J*. 2020; 84: 577-583.

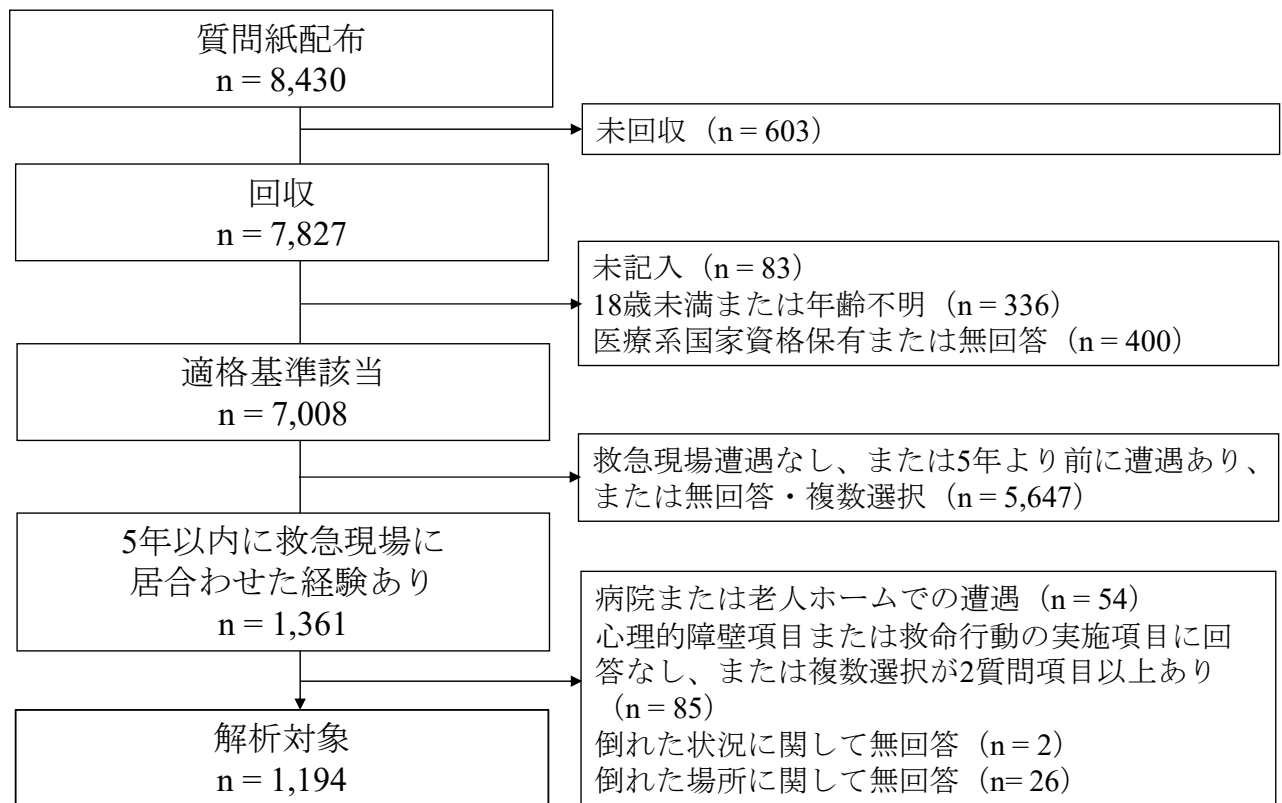


図 1. 解析対象者のフロー

表1. 傷病者が倒れた場所別および状況別、対象者(救助者)背景

	自宅				職場				公共施設			
	心停止 (n=16)	心停止以外 (n=73)	わからない (n=12)	心停止 (n=47)	心停止以外 (n=217)	わからない (n=28)	心停止 (n=13)	心停止以外 (n=122)	心停止 (n=42)	心停止以外 (n=122)	わからない (n=42)	
	6 (37.5)	31 (42.5)	3 (25.0)	35 (74.5)	133 (61.3)	19 (67.9)	8 (61.5)	63 (51.6)	21 (50.0)	63 (51.6)	21 (50.0)	
男性												
年齢, 歳, 中央値 (四分位)	47.5 (41.5-53.0)	37 (25.0-49.0)	32.0 (22.0-46.0)	44.0 (37.5-54.0)	41.0 (31.0-48.0)	46.0 (33.0-55.5)	30.0 (23.0-45.0)	36.5 (28.0-45.0)	29.0 (24.0-48.0)	36.5 (28.0-45.0)	29.0 (24.0-48.0)	
居合わせる前の心肺蘇生講習会の受講あり	10 (62.5)	38 (52.1)	7 (58.3)	29 (61.7)	139 (64.1)	16 (57.1)	10 (76.9)	87 (71.3)	22 (52.4)	87 (71.3)	22 (52.4)	
居合わせる前の傷病者への対応あり	7 (43.8)	28 (38.4)	2 (16.7)	38 (80.9)	141 (65.0)	12 (42.9)	5 (38.5)	67 (54.9)	13 (31.0)	67 (54.9)	13 (31.0)	
	学校				スポーツ施設				その他(道路上等)			
	心停止 (n=6)	心停止以外 (n=65)	わからない (n=8)	心停止 (n=6)	心停止以外 (n=45)	わからない (n=5)	心停止 (n=34)	心停止以外 (n=327)	心停止 (n=128)	心停止以外 (n=327)	わからない (n=128)	
	4 (66.7)	25 (38.5)	3 (37.5)	5 (83.3)	24 (53.3)	3 (60.0)	26 (76.5)	171 (52.3)	56 (43.8)	171 (52.3)	56 (43.8)	

表2. 傷病者が倒れた場所別および状況別、現場の状況

	自宅			職場			公共施設		
	心停止 (n=16)	心停止以外 (n=73)	わからない (n=12)	心停止 (n=47)	心停止以外 (n=217)	わからない (n=28)	心停止 (n=13)	心停止以外 (n=122)	わからない (n=42)
他の人の存在	10 (62.5)	55 (75.3)	12 (100.0)	44 (93.6)	213 (98.2)	27 (96.4)	13 (100.0)	122 (100.0)	42 (100.0)
緊急性の認識	15 (93.8)	73 (100.0)	10 (83.3)	46 (97.9)	215 (99.1)	27 (96.4)	10 (76.9)	121 (99.2)	36 (85.7)
傷病者に外傷あり	0 (0.0)	4 (5.5)	2 (16.7)	9 (19.1)	19 (8.8)	1 (3.6)	2 (15.4)	13 (10.7)	1 (2.4)
傷病者との関係性									
家族	15 (93.8)	65 (89.0)	10 (83.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (11.9)
友人	0 (0.0)	3 (4.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.8)
知人	1 (6.3)	1 (1.4)	0 (0.0)	1 (2.1)	6 (2.8)	0 (0.0)	1 (7.7)	3 (2.5)	2 (4.8)
同僚	0 (0.0)	1 (1.4)	0 (0.0)	8 (17.0)	65 (30.0)	5 (17.9)	1 (7.7)	3 (2.5)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	3 (4.1)	2 (16.7)	38 (80.9)	147 (67.7)	22 (78.6)	11 (84.6)	109 (89.3)	40 (95.2)
傷病者の性別, 男性	7 (43.8)	27 (37.0)	4 (33.3)	32 (68.1)	130 (59.9)	22 (78.6)	10 (76.9)	61 (50.0)	31 (73.8)
傷病者の年齢区分, 大人	14 (87.5)	61 (83.6)	11 (91.7)	43 (91.5)	201 (92.6)	27 (96.4)	13 (100.0)	116 (95.1)	40 (95.2)

	学校			スポーツ施設			その他(道路上等)		
	心停止 (n=6)	心停止以外 (n=65)	わからない (n=8)	心停止 (n=6)	心停止以外 (n=45)	わからない (n=5)	心停止 (n=34)	心停止以外 (n=327)	わからない (n=128)
他の人の存在	6 (100.0)	65 (100.0)	8 (100.0)	6 (100.0)	45 (100.0)	5 (100.0)	32 (94.1)	305 (93.3)	125 (97.7)
緊急性の認識	5 (83.3)	63 (96.9)	8 (100.0)	5 (83.3)	45 (100.0)	5 (100.0)	33 (97.1)	315 (96.3)	115 (89.8)
傷病者に外傷あり	1 (16.7)	2 (3.1)	1 (12.5)	0 (0.0)	6 (13.3)	0 (0.0)	6 (17.6)	105 (32.1)	18 (14.1)
傷病者との関係性			0.0						
家族	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (0.9)	3 (2.3)
友人	0 (0.0)	22 (33.8)	1 (12.5)	1 (16.7)	7 (15.6)	0 (0.0)	1 (2.9)	15 (4.6)	3 (2.3)
知人	0 (0.0)	6 (9.2)	1 (12.5)	1 (16.7)	7 (15.6)	1 (20.0)	3 (8.8)	15 (4.6)	4 (3.1)
同僚	0 (0.0)	9 (13.8)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (2.1)	1 (0.8)
その他	6 (100.0)	27 (41.5)	5 (62.5)	4 (66.7)	30 (66.7)	4 (80.0)	30 (88.2)	286 (87.5)	117 (91.4)
傷病者の性別, 男性	3 (50.0)	30 (46.2)	4 (50.0)	5 (83.3)	24 (53.3)	5 (100.0)	27 (79.4)	203 (62.1)	89 (69.5)
傷病者の年齢区分, 大人	6 (100.0)	30 (46.2)	4 (50.0)	6 (100.0)	35 (77.8)	4 (80.0)	34 (100.0)	299 (91.4)	124 (96.9)

表3. 傷病者が倒れた場所別および状況別、対象者(救助者)が行った救助行動

	自宅				職場				公共施設			
	心停止 (n=16)	心停止以外 (n=73)	わからない (n=12)	心停止 (n=47)	心停止以外 (n=217)	わからない (n=28)	心停止 (n=13)	心停止以外 (n=122)	心停止 (n=13)	心停止以外 (n=122)	わからない (n=42)	
倒れている人に声をかけた												
実施した	14 (87.5)	65 (89.0)	7 (58.3)	30 (63.8)	163 (75.1)	19 (67.9)	4 (30.8)	71 (58.2)	4 (30.8)	71 (58.2)	8 (19.0)	
他の救助者が実施	1 (6.3)	4 (5.5)	5 (41.7)	13 (27.7)	49 (22.6)	8 (28.6)	9 (69.2)	46 (37.7)	9 (69.2)	46 (37.7)	33 (78.6)	
実施しなかった	0 (0.0)	4 (5.5)	0 (0.0)	3 (6.4)	2 (0.9)	1 (3.6)	0 (0.0)	3 (2.5)	0 (0.0)	3 (2.5)	1 (2.4)	
Missing	1 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.1)	3 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.6)	0 (0.0)	2 (1.6)	0 (0.0)	
人を集めた、周りの人に指示をした												
実施した	2 (12.5)	15 (20.5)	5 (41.7)	25 (53.2)	100 (46.1)	10 (35.7)	3 (23.1)	42 (34.4)	3 (23.1)	42 (34.4)	4 (9.5)	
他の救助者が実施	5 (31.3)	9 (12.3)	3 (25.0)	17 (36.2)	67 (30.9)	7 (25.0)	8 (61.5)	49 (40.2)	8 (61.5)	49 (40.2)	32 (76.2)	
実施しなかった	8 (50.0)	48 (65.8)	3 (25.0)	5 (10.6)	43 (19.8)	10 (35.7)	1 (7.7)	28 (23.0)	1 (7.7)	28 (23.0)	6 (14.3)	
Missing	1 (6.3)	1 (1.4)	1 (8.3)	0 (0.0)	7 (3.2)	1 (3.6)	1 (7.7)	3 (2.5)	1 (7.7)	3 (2.5)	0 (0.0)	
119番通報, n (%)												
実施した	12 (75.0)	61 (83.6)	8 (66.7)	20 (42.6)	108 (49.8)	11 (39.3)	3 (23.1)	29 (23.8)	3 (23.1)	29 (23.8)	5 (11.9)	
他の救助者が実施	3 (18.8)	8 (11.0)	4 (33.3)	23 (48.9)	65 (30.0)	11 (39.3)	9 (69.2)	63 (51.6)	9 (69.2)	63 (51.6)	33 (78.6)	
実施しなかった	0 (0.0)	2 (2.7)	0 (0.0)	2 (4.3)	34 (15.7)	5 (17.9)	0 (0.0)	25 (20.5)	0 (0.0)	25 (20.5)	4 (9.5)	
Missing	1 (6.3)	2 (2.7)	0 (0.0)	2 (4.3)	10 (4.6)	1 (3.6)	1 (7.7)	5 (4.1)	1 (7.7)	5 (4.1)	0 (0.0)	
胸骨圧迫												
実施した	12 (75.0)	6 (8.2)	1 (8.3)	17 (36.2)	4 (1.8)	0 (0.0)	4 (30.8)	6 (4.9)	4 (30.8)	6 (4.9)	0 (0.0)	
他の救助者が実施	2 (12.5)	7 (9.6)	1 (8.3)	20 (42.6)	32 (14.7)	8 (28.6)	9 (69.2)	33 (27.0)	9 (69.2)	33 (27.0)	27 (64.3)	
実施しなかった	1 (6.3)	59 (80.8)	8 (66.7)	9 (19.1)	173 (79.7)	18 (64.3)	0 (0.0)	77 (63.1)	0 (0.0)	77 (63.1)	13 (31.0)	
Missing	1 (6.3)	1 (1.4)	2 (16.7)	1 (2.1)	8 (3.7)	2 (7.1)	0 (0.0)	6 (4.9)	0 (0.0)	6 (4.9)	2 (4.8)	
人工呼吸												
実施した	4 (25.0)	3 (4.1)	2 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.5)	0 (0.0)	3 (2.5)	0 (0.0)	
他の救助者が実施	2 (12.5)	8 (11.0)	1 (8.3)	21 (44.7)	30 (13.8)	5 (17.9)	8 (61.5)	31 (25.4)	8 (61.5)	31 (25.4)	25 (59.5)	
実施しなかった	9 (56.3)	59 (80.8)	9 (75.0)	25 (53.2)	179 (82.5)	20 (71.4)	4 (30.8)	82 (67.2)	4 (30.8)	82 (67.2)	15 (35.7)	
Missing	1 (6.3)	3 (4.1)	0 (0.0)	1 (2.1)	8 (3.7)	3 (10.7)	1 (7.7)	6 (4.9)	1 (7.7)	6 (4.9)	2 (4.8)	
AEDを探しに行ったり、運搬した												
実施した	0 (0.0)	4 (5.5)	1 (8.3)	11 (23.4)	35 (16.1)	4 (14.3)	1 (7.7)	5 (4.1)	1 (7.7)	5 (4.1)	4 (9.5)	
他の救助者が実施	2 (12.5)	7 (9.6)	2 (16.7)	29 (61.7)	56 (25.8)	12 (42.9)	10 (76.9)	54 (44.3)	10 (76.9)	54 (44.3)	26 (61.9)	
実施しなかった	12 (75.0)	59 (80.8)	8 (66.7)	6 (12.8)	107 (49.3)	11 (39.3)	1 (7.7)	58 (47.5)	1 (7.7)	58 (47.5)	11 (26.2)	
Missing	2 (12.5)	3 (4.1)	1 (8.3)	1 (2.1)	19 (8.8)	1 (3.6)	1 (7.7)	5 (4.1)	1 (7.7)	5 (4.1)	1 (2.4)	
AEDの使用												
実施した	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	13 (27.7)	10 (4.6)	1 (3.6)	2 (15.4)	4 (3.3)	2 (15.4)	4 (3.3)	2 (4.8)	
他の救助者が実施	1 (6.3)	6 (8.2)	2 (16.7)	21 (44.7)	33 (15.2)	7 (25.0)	8 (61.5)	33 (27.0)	8 (61.5)	33 (27.0)	22 (52.4)	
実施しなかった	13 (81.3)	65 (89.0)	8 (66.7)	13 (27.7)	167 (77.0)	19 (67.9)	2 (15.4)	78 (63.9)	2 (15.4)	78 (63.9)	16 (38.1)	
Missing	2 (12.5)	2 (2.7)	1 (8.3)	0 (0.0)	7 (3.2)	1 (3.6)	1 (7.7)	7 (5.7)	1 (7.7)	7 (5.7)	2 (4.8)	
上記以外に何らかの救命行動を行った												
実施した	4 (25.0)	35 (47.9)	6 (50.0)	18 (38.3)	113 (52.1)	7 (25.0)	2 (15.4)	46 (37.7)	2 (15.4)	46 (37.7)	5 (11.9)	
他の救助者が実施	0 (0.0)	4 (5.5)	1 (8.3)	10 (21.3)	29 (13.4)	7 (25.0)	7 (53.8)	30 (24.6)	7 (53.8)	30 (24.6)	19 (45.2)	
実施しなかった	7 (43.8)	27 (37.0)	4 (33.3)	11 (23.4)	48 (22.1)	9 (32.1)	2 (15.4)	31 (25.4)	2 (15.4)	31 (25.4)	12 (28.6)	
Missing	5 (31.3)	7 (9.6)	1 (8.3)	8 (17.0)	27 (12.4)	5 (17.9)	2 (15.4)	15 (12.3)	2 (15.4)	15 (12.3)	6 (14.3)	

表3. 傷病者が倒れた場所別および状況別、対象者(救助者)が行った救助行動(続き)

	学校				スポーツ施設				その他(道路上等)			
	心停止 (n=6)	心停止以外 (n=65)	わからない (n=8)	わからない (n=5)	心停止 (n=6)	心停止以外 (n=45)	わからない (n=5)	心停止 (n=34)	心停止以外 (n=327)	わからない (n=128)		
倒れている人に声をかけた												
実施した	2 (33.3)	39 (60.0)	2 (25.0)	3 (60.0)	3 (50.0)	30 (66.7)	3 (60.0)	22 (64.7)	230 (70.3)	31 (24.2)		
他の救助者が実施	4 (66.7)	23 (35.4)	5 (62.5)	2 (40.0)	3 (50.0)	14 (31.1)	2 (40.0)	11 (32.4)	83 (25.4)	83 (64.8)		
実施しなかった	0 (0.0)	3 (4.6)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.2)	0 (0.0)	1 (2.9)	12 (3.7)	13 (10.2)		
Missing	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.6)	1 (0.8)		
人を集めた、周りの人に指示をした												
実施した	2 (33.3)	20 (30.8)	2 (25.0)	3 (60.0)	2 (33.3)	16 (35.6)	3 (60.0)	13 (38.2)	95 (29.1)	10 (7.8)		
他の救助者が実施	4 (66.7)	27 (41.5)	4 (50.0)	2 (40.0)	4 (66.7)	22 (48.9)	2 (40.0)	15 (44.1)	114 (34.9)	76 (59.4)		
実施しなかった	0 (0.0)	17 (26.2)	2 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (11.1)	0 (0.0)	5 (14.7)	105 (32.1)	39 (30.5)		
Missing	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.4)	0 (0.0)	1 (2.9)	13 (4.0)	3 (2.3)		
119番通報, n (%)												
実施した	1 (16.7)	13 (20.0)	1 (12.5)	2 (40.0)	2 (33.3)	13 (28.9)	2 (40.0)	13 (38.2)	119 (36.4)	21 (16.4)		
他の救助者が実施	5 (83.3)	29 (44.6)	6 (75.0)	3 (60.0)	4 (66.7)	23 (51.1)	3 (60.0)	20 (58.8)	143 (43.7)	74 (57.8)		
実施しなかった	0 (0.0)	21 (32.3)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (15.6)	0 (0.0)	1 (2.9)	52 (15.9)	32 (25.0)		
Missing	0 (0.0)	2 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (4.0)	1 (0.8)		
胸骨圧迫												
実施した	2 (33.3)	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (47.1)	3 (0.9)	4 (3.1)		
他の救助者が実施	4 (66.7)	12 (18.5)	4 (50.0)	4 (80.0)	5 (83.3)	14 (31.1)	4 (80.0)	13 (38.2)	67 (20.5)	62 (48.4)		
実施しなかった	0 (0.0)	49 (75.4)	4 (50.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	29 (64.4)	1 (20.0)	5 (14.7)	234 (71.6)	59 (46.1)		
Missing	0 (0.0)	3 (4.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (7.0)	3 (2.3)		
人工呼吸												
実施した	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (26.5)	1 (0.3)	1 (0.8)		
他の救助者が実施	4 (66.7)	11 (16.9)	4 (50.0)	3 (60.0)	3 (50.0)	14 (31.1)	3 (60.0)	12 (35.3)	63 (19.3)	60 (19.5)		
実施しなかった	2 (33.3)	51 (78.5)	4 (50.0)	2 (40.0)	2 (33.3)	29 (64.4)	2 (40.0)	13 (38.2)	237 (72.5)	62 (11.7)		
Missing	0 (0.0)	3 (4.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (7.6)	5 (1.6)		
AEDを探しに行ったり、運搬した												
実施した	1 (16.7)	3 (4.6)	1 (12.5)	0 (0.0)	3 (50.0)	6 (13.3)	0 (0.0)	6 (17.6)	11 (3.4)	1 (0.8)		
他の救助者が実施	5 (83.3)	23 (35.4)	5 (62.5)	4 (80.0)	3 (50.0)	16 (35.6)	4 (80.0)	20 (58.8)	93 (28.4)	60 (46.9)		
実施しなかった	0 (0.0)	36 (55.4)	2 (25.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	19 (42.2)	1 (20.0)	7 (20.6)	195 (59.6)	62 (48.4)		
Missing	0 (0.0)	3 (4.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (8.9)	0 (0.0)	1 (2.9)	28 (8.6)	5 (3.9)		
AEDの使用												
実施した	2 (33.3)	1 (1.5)	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (33.3)	3 (6.7)	1 (20.0)	7 (20.6)	3 (0.9)	1 (0.8)		
他の救助者が実施	4 (66.7)	11 (16.9)	4 (50.0)	3 (60.0)	4 (66.7)	12 (26.7)	3 (60.0)	16 (47.1)	61 (18.7)	57 (44.5)		
実施しなかった	0 (0.0)	51 (78.5)	4 (50.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	28 (62.2)	1 (20.0)	11 (32.4)	241 (73.7)	67 (52.3)		
Missing	0 (0.0)	2 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	22 (6.7)	3 (2.3)		
上記以外に何らかの救命行動を行った												
実施した	1 (16.7)	23 (35.4)	2 (25.0)	0 (0.0)	2 (33.3)	24 (53.3)	0 (0.0)	8 (23.5)	158 (48.3)	20 (15.6)		
他の救助者が実施	2 (33.3)	13 (20.0)	2 (25.0)	3 (60.0)	1 (16.7)	8 (17.8)	3 (60.0)	9 (26.5)	60 (18.3)	53 (41.4)		
実施しなかった	1 (16.7)	20 (30.8)	3 (37.5)	0 (0.0)	1 (16.7)	5 (11.1)	0 (0.0)	7 (20.6)	70 (21.4)	40 (31.3)		
Missing	2 (33.3)	9 (13.8)	1 (12.5)	2 (40.0)	2 (33.3)	8 (17.8)	2 (40.0)	10 (29.4)	39 (11.9)	15 (11.7)		

表4. 傷病者が倒れた場所別および状況別、対象者(救助者)がAEDを使えなかった理由

	自宅			職場			公共施設		
	心停止 (n=13)	心停止以外 (n=65)	わからない (n=8)	心停止 (n=13)	心停止以外 (n=167)	わからない (n=19)	心停止 (n=2)	心停止以外 (n=78)	わからない (n=16)
倒れている人が、会話ができるなど明らかにAEDが不要な状態であった	2 (15.4)	42 (64.6)	2 (25.0)	3 (23.1)	150 (89.8)	14 (73.7)	1 (50.0)	67 (85.9)	6 (37.5)
AEDが到着する前または、使用する前に救急隊が到着した	2 (15.4)	4 (6.2)	0 (0.0)	2 (15.4)	9 (5.4)	4 (21.1)	1 (50.0)	7 (9.0)	2 (12.5)
AEDを調達できる状況ではなかった(自分以外に人がいなかったなど)	6 (46.2)	17 (26.2)	2 (25.0)	3 (23.1)	6 (3.6)	1 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
自分自身がAEDを使用してもよいかわからなかった	0 (0.0)	3 (4.6)	0 (0.0)	1 (7.7)	2 (1.2)	2 (10.5)	0 (0.0)	4 (5.1)	1 (6.3)
倒れている人に対してAEDを使用してもよい状況かどうかわからなかった	0 (0.0)	2 (3.1)	1 (12.5)	2 (15.4)	9 (5.4)	2 (10.5)	0 (0.0)	8 (10.3)	3 (18.8)
AEDは到着したが、使用方法が分からなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
AEDは到着したが、正しく利用できるか自信がなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
AEDがどこにあるかわからなかった	2 (15.4)	8 (12.3)	3 (37.5)	1 (7.7)	4 (2.4)	1 (5.3)	0 (0.0)	5 (6.4)	1 (6.3)
AEDを使用するというのが思いつかなかった	0 (0.0)	5 (7.7)	0 (0.0)	1 (7.7)	4 (2.4)	2 (10.5)	0 (0.0)	2 (2.6)	2 (12.5)
AEDをそもそも知らなかった	0 (0.0)	1 (1.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (0.6)	1 (5.3)	0 (0.0)	2 (2.6)	1 (6.3)

	学校			スポーツ施設			その他(道路上等)		
	心停止 (n=0)	心停止以外 (n=51)	わからない (n=4)	心停止 (n=0)	心停止以外 (n=28)	わからない (n=1)	心停止 (n=11)	心停止以外 (n=241)	わからない (n=67)
倒れている人が、会話ができるなど明らかにAEDが不要な状態であった	0 (0.0)	43 (84.3)	2 (50.0)	0 (0.0)	26 (92.9)	1 (100.0)	0 (0.0)	187 (77.6)	20 (29.9)
AEDが到着する前または、使用する前に救急隊が到着した	0 (0.0)	3 (5.9)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (36.4)	18 (7.5)	17 (25.4)
AEDを調達できる状況ではなかった(自分以外に人がいなかったなど)	0 (0.0)	1 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (27.3)	15 (6.2)	8 (11.9)
自分自身がAEDを使用してもよいかわからなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	10 (4.1)	9 (13.4)
倒れている人に対してAEDを使用してもよい状況かどうかわからなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (3.6)	0 (0.0)	2 (18.2)	16 (6.6)	16 (23.9)
AEDは到着したが、使用方法が分からなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.0)
AEDは到着したが、正しく利用できるか自信がなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	4 (6.0)
AEDがどこにあるかわからなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (27.3)	17 (7.1)	13 (19.4)
AEDを使用するというのが思いつかなかった	0 (0.0)	2 (3.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (5.4)	10 (14.9)
AEDをそもそも知らなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	1 (1.5)

